

ネットリテラシー特集

情報モラルの土台となるインターネットの知識

インターネットは「外」。自分の手元にあるスマホやパソコンが「外」だと思えるように意識するには。



地球を覆うように海底ケーブルでつながる「インターネット」。

リアルもインターネットも守る公共モラルは同じ。

「インターネット」や「パソコン」と聞くと特別なことを知らないといけないのではないかという印象を持ちます。しかし、わたしたちが守るべきモラルはリアルもインターネットも共通です。

インターネットは「外」。外でやって良いことかどうか判断基準。

「インターネットって何？」と小さなこどもに聞かれたらなんと答えますか？実はとてもシンプルで、「世界中のパソコンやスマートフォンなどのデバイスが全てつながっていること」です。なんとなく

電波でつながっているように思っていますが、実際には海底ケーブルでつながっているのです。蜘蛛の巣を張るように地球上をケーブルで覆っています。「つながっている」それだけのことでわたしたちの生活は大きく変化しました。いろいろなことが便利になっている一方でトラブルも増えています。自分の手元にあるスマートフォンやパソコンが世界中の全てとつながっている、という感覚を持ってないことから起こります。リラックスできる自室にしながら、ここは外である、と思えるか。これが情報モラルのためにもっとも重要な感覚です。

「公共」でのルールをこどもたちに教えるために大人も改めて学ぶ。

情報モラルの土台の知識として、もう一つ大事なのが「個人の自由」の理解です。自由とは「自分勝手に許される」という意味ではありません。例えば、有名人や企業は叩いても良い、と考える人がいます。相手が大きい存在だと「悪いことをしたのだから叩かれて当たり前だ」と考えてしまう人は少なくありません。自分の道徳的優越感を満たすために行っている行為ですが、「正義」という建前に隠れ、本人もそれに気づかずにいます。相手がどんなに悪いことをしたとしても、無関係の第三者にそれを裁く権利はありません。真実であったとしても公の場で悪口を言えば、「名誉毀損罪」が成立します。個人の自由はあくまでも「他の人の利益を損害しない」という元で成立する、ということを理解しておく必要があります。



スマホやパソコンの中なのに「外」と意識するには？

リアルな世界の「公」とは異なり、インターネットの世界はそこが「公」の世界だと気づきにくい傾向があります。リアルと比べて視覚的・身体的に体感できないので、区別がつきにくいのです。情報空間の認知能力を身につけるには4つの学ぶべきテーマがあります。「リテラシー」「社会性・想像力」「コミュニケーションの経験」「多様な価値観の認知」です。4つを体験できるワークをご用意しています。ぜひ家庭や学校で学びに生かしていただけたらと思います。



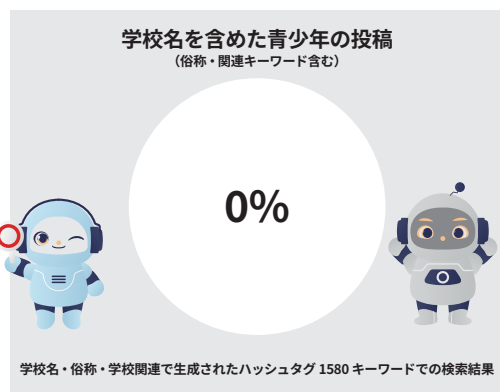
ネットリテラシー 今月のポイント

- 求められるモラルはリアルと同じ
- ただしインターネットは「外」
- 手元のスマホやPCの中なのに「外」と感じるには

ネットパトロール報告

2025 年 4 月度調査報告

学校名を入れて問題のある投稿をしていた児童・生徒は0でした。



2025 年 4 月 8 日より SNS での調査を開始。まずは和歌山県内の学校名（俗称や関連ハッシュタグを含む）の 1580 件に対して調査を行いました。その結果、学校名を明らかにして問題のある内容を投稿をしている投稿は0件でした。

リテラシーが上がっている一方で、問題は水面下に潜る傾向に。

調査結果から考えて「個人に関する情報をインターネットにアップしてはいけない」という知識はこどもたちには備わってきていると考えられます。非公開のアカウントが和歌山県内の青少年であろうと推測されるアカウントを調査したところ、257 件中 71 パーセントが非公開、という結果に。非公開のアカウントについては中で何を書いているのかを探ることはできません。つまり問題がある行動も水面下に潜る傾向があるということです。

分析

問題行動には当たらないが、危ういと感じさせるケースは？

すぐに問題にはならないが注意が必要だと感じさせたものには以下のようなものが見つかりました。

- ・友だちの写真を掲載しているが許可を取っていない可能性がある
- ・プロフィールに顔写真を載せている
- ・プロフィール欄に学校の略称や学年を掲載している
- ・店舗など許可が必要な場所で撮影した画像を投稿している

それ自体は問題にならなくても、リスクがあるということを理解しておく必要があります。学校内で同じような状況になっていることが多くあります。友達や知り合いがそうしているからという理由が予測できます。

非公開でも投稿が拡散！？



非公開にしていると思ったのに！

アカウントを非公開にしても、フォロワーがスクリーンショットや画面録画をして拡散してしまう可能性があります。「非公開アカウントにしているから大丈夫だ」と思い込み、問題のある内容で投稿してしまう

と、思わぬ形で拡散すること。

非公開にしたとしてもフォロワーが人間である限り、完全な守秘は保証されません。非公開であっても「公然な場」という意識が必要です。

先生方や保護者、支援機関からの情報提供・相談も受け付けます。

わかやまネットトラブル相談窓口では、先生方や保護者の方からの相談も受け付けています。問題のある投稿を見つけた、この問題に対しての対処方法を教えて欲しいなど、インターネットのトラブルに関連する様々な解決をお手伝いします。web サイト右下のチャットからアクセスして、ご相談をお寄せください。



ネットトラブルの相談窓口がオープン



オリジナルキャラクター リラとカイをよろしくお願いします！

わかやまネットトラブル相談窓口のオリジナルキャラクター、「リラ」と「カイ」です。こどもたちに相談窓口のことを覚えてもらうために登場してもらっています。相談窓口はもちろん、講義資料や配布資料、この啓発資料などにも登場します。可愛がっていただけると幸いです！

24 時間、チャット bot で相談いただけます！

ネットトラブルの相談窓口がオープンしました。右下のリラちゃんのボタンからチャットを行うことができます。24 時間、チャット bot が自動で対応するため、気軽に相談ができます。平日 15:00-19:00 には希望すれば相談員とお話することも可能です。こどもたちからの相談はもちろん、先生方・保護者・青少年の支援機関からの情報提供や相談も受け付けています。

インターネット上での こんなことを相談いただけます！

- アカウントを乗っ取られた
- 無断投稿を削除してほしい
- 暴力的な表現の投稿を見つけた
- 危険な行為の投稿を見つけた など

青少年

保護者

学校関係者

支援機関

こんな機能もあります！

ネット動物診断や未来予測クイズなどでお試しできます！

チャットで相談する練習ができるように、こどもたちが楽しめる診断やクイズも用意しています。申し込みは不要ですすぐにお試しいただけます。ぜひ授業などで試してみてください！

心理

先生からの相談 # 高校生 # 誹謗中傷 # 心のケア

Q 他校の生徒から SNS 上で誹謗中傷を受けていると相談がありました。

SNS で他校の生徒から誹謗中傷を受けていると A さんから相談がありました。投稿を読みましたが、第三者からみて特定できるような情報は書かれていません。ただ、本人は「絶対に自分のことだ」と言っています。誹謗中傷を受けた生徒をどのようにフォローすべきでしょうか？また、誹謗中傷を書き込んだ生徒に学校を通じて連絡を取るべきでしょうか？



誹謗中傷を受けた生徒の話をよく聞いて、一緒に考えていくことで心のケアを。

この問題の中心は「中傷を受けた生徒のケア」です。誹謗中傷を受けると、「どうにかして謝らせたい」「相手の間違いを正したい」と思いがちです。しかし、相手の気持ちを抗議して変えることは難しいでしょう。当カウンセリングルームでは、SNS などへの投稿で傷つき、不登校になったという相談は少なくありません。事実確認や問題の追求の前に A さんが先生を信頼して話してくれたことに対して、先生が味方でいてくれると感じてもらうことが必要です。

「気にするな」というアドバイスだけでは「真剣に取り組んでくれなかった」と感じ、もし次に何かあったときに大人に SOS を出すことを諦めてしまう可能性もあります。話ができるくらい落ち着いたら、「よく話してくれた」と伝えた上で、気持ちを整理してみましょう。怒りの感情が前に出ていたとしても、その背景には悲しさや不安、寂しさがあるのかもしれません。相手とのコミュニケーション不足から起こっていることかもしれません。それらの気持ちを一緒に確認して受け止め、そのうえで何を望んでいるのかを尋ねてみてください。相手が「事実と異なる」と言い張る可能性もある、と伝えた上で、相手と直接話をする場を作りたいか、相手に名前を出しても良いかなど、丁寧に話を聞いていきましょう。そうすれば取るべき行動が見えてくるはずです。中傷した生徒に接触することはできないかもしれません。だからこそ、学校全体でネットリテラシー、リスク、ストレスマネジメント、コミュニケーションの大切さなどについて授業や話し合いを持つことが重要だと考えます。



a spoonful of suger
公認心理師・臨床心理士

浅井 育子 先生

田辺市上屋敷でカウンセリングルームを主催。病院での勤務経験やスクールカウンセラーの経験を生かし、ひきこもり・不登校などの課題の解決に向けたカウンセリングを実施している。

県内の学校での講義をスタートしました！



みなさん、真剣に聞いてくださいました！

インターネットに関する情報モラルを学ぶための講義をスタートしました。2025年度は80校に授業を提供する予定です。

4月は、和歌山工業高等専門学校、古佐田丘中学校、紀北農芸高校の3校にお伺いしました。みなさん、真剣に授業に取り組んでくださり、質問のコーナーでは元気よく手をあげたり、大きな声で答えを言ってくれたり、賑やかな雰囲気が進みました。

こんな授業をご用意しています。

★小学校低学年・小学校高学年～中学生・高校生の3段階に分けたプログラムをご用意しています。

★情報モラル・情報の利活用・犯罪やトラブルの防止の3つのテーマをご用意しています。

	情報モラル	情報の利活用	犯罪やトラブルの防止
	(情報社会で適正に活動するための基となる考え方、態度や倫理等に関する内容) 情報モラルの講義では、インターネットでつながっていることが当たり前の時代に必要「多様性の認知」についての考え方や、著作権・肖像権などの知識などを中心に取り上げます。	(情報について適切に判断し、意思決定する能力等に関する内容) 情報の利活用の講義では、情報の真偽を確認するための習慣と、騙されないようにするためのセルフコントロールについてを中心に上げます。	(時勢に沿った事例の紹介、未然防止策、対処法等に関する内容) 犯罪やトラブルの防止についての講義では、実際にあったケーススタディを元に、どうすればよかったのかを考える機会とし、自分の弱さを含めて自分を認めることの大切さを伝えます。
	ネットもおもちゃ！やさしいつかいかた	けんさくでしらべてみつけよう！	あやしいことには「ちょっとまって！」
小学校低学年向け	ネットも「おもちゃ」と同じように、やさしく大切に使うことを学びます。知らない人とつながらないことや、友だちを思いやる気持ちをワークと絵で考えます。	タブレットやインターネットで正しく調べる楽しさを学びます。「なんでも出てくる」ネットの中で、どれが本当かをやさしく見わけ力を育てます。	ゲームやYouTube中の「あやしい人」や「へんなおさそい」を見分ける力を育てます。「知らない人には返事をしない」ことの大切さも学びます。
	ネットで人とつながる時に大切なこと	本当に正しい？インターネット情報の見わけ方	そのメッセージ、本当に安全？ネットのこわいワナ
小学校高学年～中学生向け	SNSやチャットで人と関わる時に大切なマナーや思いやりを考えます。投稿の影響や、相手の気持ちを考える力をクイズや事例を使って学びます。	検索して出てきた情報をうのみにせず、信ぴょう性を見きわめる視点を育てます。フェイクニュースやAI生成情報への対処も扱います。	なりすまし・あやしい誘い・危険な書きこみなど、ネットでのトラブルの具体例をクイズと対話で学びます。自分を守る知恵と判断力を養います。
	“軽いノリ”が一生モノ？ 発信と受信、両方のスキルを身につけよう！	情報を活かす力ーAI・検索・リテラシーを武器にする	ネットにひそむリスクーあなたを守るための判断力
高校生向け	「軽い気持ちの投稿」が将来や社会にどんな影響を与えるかを具体例を元に、発信側・受信側の両面から考えます。著作権・肖像権侵害などの法的なリスクと、個人化の時代の「多様性の認知」という2つの知識を身につけます。	検索、AI、SNSなど現代の情報をどう見て、どう使いこなすか。情報リテラシーを武器にすることで、進学や就職にも活かせる力をつけます。	SNS詐欺や個人情報流出、ネットいじめなど、見えにくいネット犯罪への理解を深めます。被害者にも加害者にもならない判断力を身につけます。

小学校・中学校・高校・支援学校からの
お申し込みお待ちしております。



**わかやま
ネットパトロール通信**

令和7年度「青少年ネット安全・安心のための環境整備事業実施業務」
企画・制作：TETAU 事業協同組合

お問い合わせ

TETAU 事業協同組合

050-5536-9139 (平日 10:00～16:00)

netpat@tetau.jp (担当：森脇・信貴・中村)

和歌山県 共生社会推進部 こども家庭局 こども支援課

TEL：073-441-2502 FAX：073-441-2491

メール：e1104001@pref.wakayama.lg.jp